

木津川市ごみ処理の現状と課題

木津川市においては、大規模な住宅開発等による人口増加に伴うごみ量増加に対応するため、平成 24 年度、本市のごみ減量の実践活動の指針として「木津川市ごみ減量化推進計画」を策定し、ごみの発生抑制・再使用・再生利用などの取組みを展開しているところです。しかしながら市民一人あたりのごみ排出量は、その後も横ばい状態が続いていることから、更なるごみ減量化を進めて、ごみ排出量の削減を図ることが課題となっています。

このため、市民のごみ減量に対する意識啓発に努め、具体的なごみ減量行動を促進するとともに、市民の間における費用負担の公平性を確保する観点から、ごみの有料化も含めた家庭系ごみの減量施策についての検討が必要となっています。

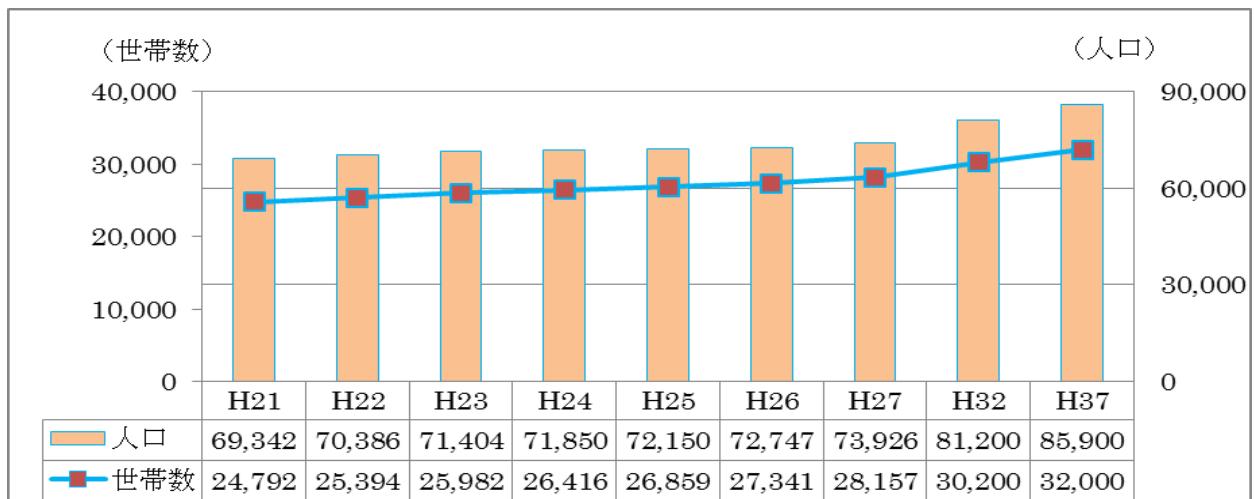
このような中、本審議会は、木津川市長から「家庭系ごみ減量施策について」諮問を受け、平成 25 年 12 月から 9 回にわたり審議をおこない、昨年 12 月 16 日に中間報告のとりまとめを行ったところです。

今後は、ごみ有料化に関する具体的な導入の仕組みやその効果などの検討を行い、更なるごみ減量施策について、とりまとめを行っていくものであります。

(1) 人口・世帯数の推移

全国的に人口減少が進む中、本市の人口は、増加傾向にあり、平成 37 年には人口、世帯数はそれぞれ約 85,900 人、約 32,000 世帯になる見込みです。

(図表 1)

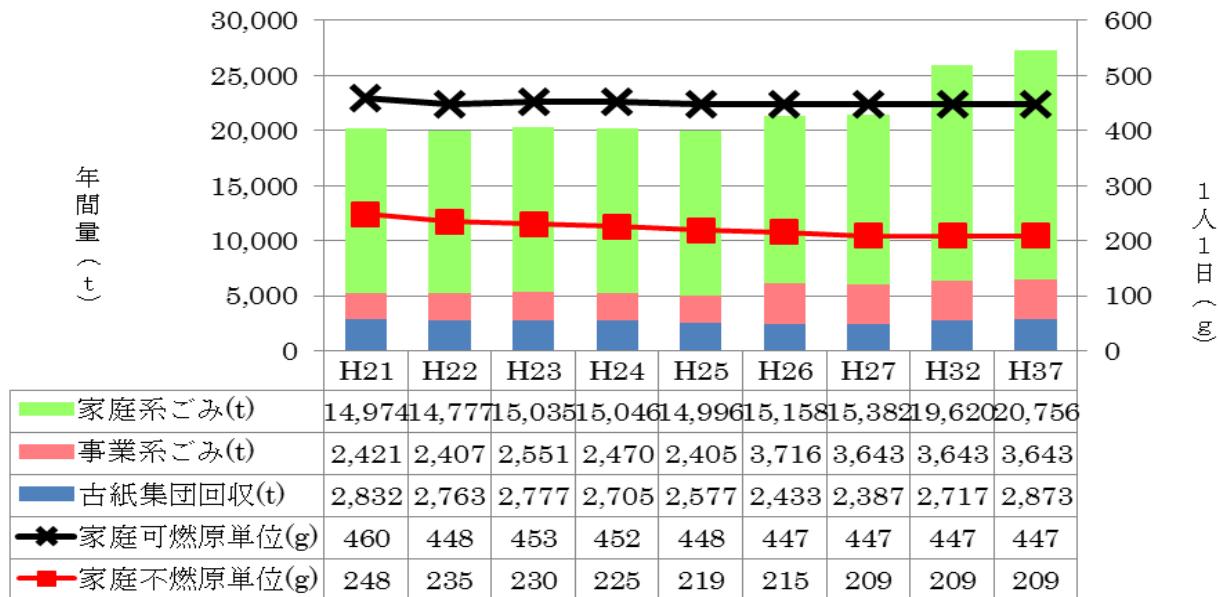


人口・世帯数は、9月末の住民基本台帳人口としています。

(2) ごみ排出量の推移

ごみ排出量は、人口や世帯数が増加傾向にあるものの、家庭系ごみ及び事業系ごみの排出量は、いずれもほぼ横ばいで推移しています。

(図表 2)



«ごみの種類別排出量»

(t) (図表 3)

項目／年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
家庭系ごみ総排出量	15,035	15,046	14,996	15,158	15,267
燃やすごみ	11,387	11,436	11,410	11,507	11,722
ビニ・プラ容器包装	941	928	902	900	927
燃やさないごみ	1,340	1,327	1,286	1,270	1,297
ビニール・プラスチック	414	410	387	377	383
粗大ごみ	627	632	687	794	743
ペットボトル	155	159	161	166	167
紙パック	19	19	18	16	18
乾電池	15	18	17	16	21
古紙類(行政回収分)	133	113	122	105	97
生活ガラ	4	3	4	5	5
蛍光灯	1	2	1	2	2

千円未満四捨五入の関係上、内訳の合計数値が合致しない場合があります。

(3) ごみ処理経費の推移

平成 26 年度のごみ処理経費は、全体で 985,990 千円となっており、市の一般会計市税歳入総額の約 11%に相当します。特に可燃ごみについては、排出量がほぼ横ばいにもかかわらず、経費は大きく増加しています。これは、可燃ごみを処理している打越台環境センターの老朽化が著しく、搬入量が制限され、制限超過分を民間施設で処分していることに加えて、平成 25 年度から同センターの大規模改修により起債償還が始まったことなどが大きな要因となっています。

«ごみ処理経費»

(単位 : 千円) (図表 4)

ごみ処理経費		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
収集運搬経費	可燃ごみ	229,421	230,100	230,670	233,276	257,574
	不燃ごみ	179,361	179,059	179,965	181,457	203,871
処分経費	可燃ごみ	301,049	321,666	287,288	332,416	383,415
	(※)				36,109	36,058
	不燃ごみ	132,737	130,821	134,659	135,660	141,130
合 計		845,268	861,646	832,582	882,809	985,990
人 口		70,386	71,404	71,850	72,150	72,747
市民 1 人当たりの経費		12,018	12,067	11,588	12,236	13,554

※ 起債償還額・・・可燃ごみ処分経費の内数を表示

(4) ごみ減量化推進計画

木津川市ごみ減量化推進計画（もったいないプラン）

一般廃棄物処理基本計画を推進するための指針として平成 25 年 1 月に策定

「もったいない」という心を大切に、3R 及びリムーブの施策を展開

«目標»

○ 1 人 1 日当たりの家庭系ごみについて

- ・燃やすごみの排出量を 30% (約 134g) 削減します。
- ・燃やすごみ以外の排出量を 5% (約 20g) 削減します。

○ リサイクル率を 40% にします。

具体的な目標数値

平成 37 年度 家庭系ごみ発生原単位 (1 人 1 日あたりの排出量)

可燃ごみ (廃プラスチック含む) 326g

可燃ごみ以外のごみ 311g

(5) これまでの取組状況

ごみ減量化推進計画において、可燃ごみの排出量を平成21年度から平成37年度に向けて30%の減量を目標に定めており、目標達成に向けたごみ減量施策の取組みを進めているところです。

『更なるごみ減量施策展開の概要』

(図表5)

取組事業	内 容
生ごみ処理容器講習会	講習会 H28年度計画 4回(各15名) EMバケツ、ダンボールコンポスト 『H27取組状況 参加回数6回 参加者 延べ72名』
生ごみ対策モニター制度	EMバケツ、ダンボールコンポスト(各30名) 『H27 モニター申込実績 22名』
給食残渣「ゼロ」活動	コンポスト、EMバケツ、ダンボールコンポスト配置 (保育園:8園 小学校:13校 中学校:5校) 1,612千円(見込)
給食センター厨芥削減対策	給食センターから排出される生ごみ削減に向けた取組み(H28～全量(63t)リサイクル(堆肥化))
京都大学農場との連携事業	モデル地域指定による生ごみの分別回収 京大農場との連携によるゼロエネルギー農場(ZEF)における廃棄物系バイオマス活用の検討 17,339千円(見込)
雑紙レンジャー作戦の取組み	家庭内ごみ箱から雑紙の分別、定期回収活動 (小学校:13校) 650千円(見込)
ふれあい収集	H27.4取組開始 (現在利用者数 11名)
エコ生活応援補助金	継続事業 H28予算:1,280千円 (H27 888千円) 実績額 (H24 738 / H25 880 / H26 739)
リサイクル研修ステーション管理運営事業	継続事業 H28予算:10,820千円 (H27 10,868千円) 実績額 (H24 7,054 / H25 9,221 / H26 9,005)千円
古紙回収団体補助金	継続事業 H28予算:15,000千円 (H27 17,380千円) 実績額 (H24 13,525 / H25 12,885 / H26 12,164)千円
不法投棄パトロール	継続事業 H28予算:1,318千円 (H27 1,418千円) 実績額 (H24 1,051 / H25 1,100 / H26 1,076)千円
アダプトプログラム活動	継続事業 H28予算:344千円 (H27 410千円) 実績額 (H24 317 / H25 329 / H26 312)千円
不法投棄物処理事業	継続事業 H28予算:200千円 (H27 200千円) 実績額 (H24 198 / H25 184 / H26 200)千円
情報発信事業	継続事業
小型家電リサイクル制度	継続事業 売扱代金 (H27 見込み 86千円)

(6) ごみ減量取組み結果

平成 27 年度（速報値）では、家庭系可燃ごみ処理状況は、基準年度と比較して、一人 1 日当たり 13 g（約 3%）のごみ減量が進みました。

しかし、目標達成のためには、可燃ごみに含まれている資源ごみの分別を更に進めることが必要で、より一層市民へのイニシアティブを広める方策の検討が必要です。

（図表 6）

《基準年度》	《現状》	《目標値》
燃やすごみ 445g/人・日	減量(13g/人・日) 燃やすごみ 433g/人・日	減量 (134g/人・日) 燃やすごみ 311g/人・日
廃プラスチック 15g/人・日	廃プラスチック 14g/人・日	廃プラスチック 15g/人・日

【平成 21 年度】 【平成 27 年度】 【平成 37 年度】

(7) 燃やすごみの組成調査の結果

平成 27 年 10 月に家庭から排出される「燃やすごみ」の組成調査を行いました。

（図表 7）

地区	新興住宅地	既存市街地	農村集落
木津地区	58 袋	29 袋	2 袋
加茂地区	10 袋	19 袋	2 袋
山城地区	—	14 袋	2 袋

○組成調査の結果

■種別毎の割合の推移

今回の調査結果と、過去の調査結果を比較したところ、プラスチック類全般、紙類の容器包装及び古紙類、そして厨芥類の割合が減少しています。分別の徹底と食材のムダが減っていることがうかがえます。

一方、増加したものは、紙類のその他、繊維類と草木です。原因として、紙類その他は、紙おむつの増加、また草木は、庭木の剪定を市民自らが行うことによる増加と考えられます。

(図表 8)

«ごみ組成調査の結果と過去との比較»

(単位 : %)

種別 / 実施時期	第1回 (H23. 10)	第2回 (H24. 2)	第3回 (H24. 6)	第4回 (H24. 8)	今回 (H27. 10)
調査対象重量	325.23kg	337.86kg	328.03kg	328.03kg	330.10kg
プラスチック類	8.27	6.69	8.51	9.25	7.24
容器包装	6.84	5.32	5.87	6.83	5.57
その他	1.44	1.37	2.72	2.43	1.78
ゴム・皮革	0.40	0.38	0.18	0.69	0.27
紙類	33.25	34.89	28.74	30.71	33.50
容器包装	7.16	6.55	5.44	6.66	6.30
古紙	9.43	8.86	6.91	7.13	7.41
その他	16.66	19.48	16.39	16.92	19.79
繊維類	3.07	2.08	3.72	2.56	6.53
衣類	0.21	0.50	0.33	0.43	2.20
その他	2.86	1.58	3.38	2.12	4.33
木片	0.97	0.40	0.64	0.79	0.60
草木	1.84	1.51	2.97	1.64	3.63
厨芥類	46.43	45.87	44.89	45.57	42.86
手付かず食材	6.80	5.52	7.37	8.29	4.93
一般	39.63	40.36	37.53	37.29	37.94
ガラス	0.36	0.02	0.00	0.10	0.05
金属	0.27	1.45	0.17	0.31	0.27
陶磁器	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他	3.96	4.97	7.26	5.30	3.36
調査ごみ全量	98.82	98.26	97.03	96.92	98.32
流出水分等	1.18	1.74	2.97	3.08	1.68
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

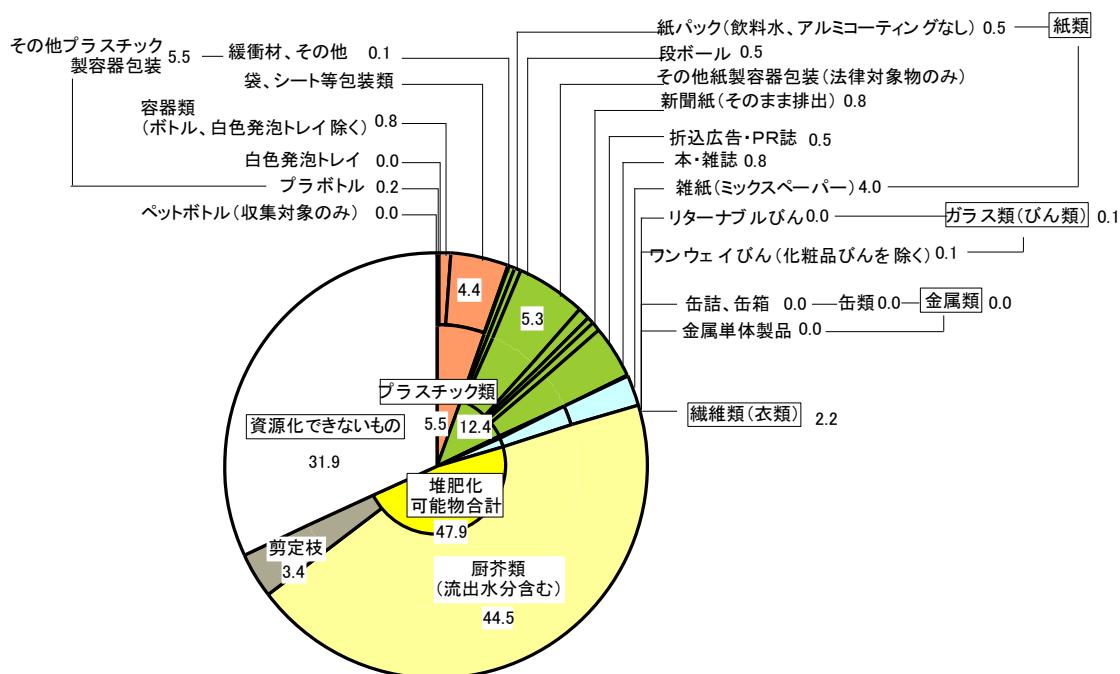
■資源化可能物の排出状況

資源化可能物の排出割合（重量比）は、紙類とプラスチック類に繊維類を加えると、合計で約 20%になります。そこに、堆肥化可能物である、厨芥類、剪定枝の約 48%を併せた、全重量の約 68%が、資源化可能物となります。

『燃やすごみ中の資源化可能物の排出割合（重量比）』

今回実施分

(図表 9)



(図表 10)

過去の平均値

